



# 丹那小だより

函南町立丹那小学校  
令和5年9月発行

## 主体的に取り組むオール丹那運動会を通して非認知能力を育てる

校長 土屋 貴俊

非認知能力とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力等といった数値で表せない個人の特性による能力のことをいいます。この非認知能力は認知能力（知識や技能等）と相互に関連し、支え合って育っていきます。また、この非認知能力の高さが学歴や雇用、収入に影響するともいわれています。

今年の運動会では、たてわり種目でメディシングボールを行います。ご存じの通りチームが一行になり頭の上でボールを渡していったり、両足の間を転がしたりしてその速さを競う種目です。

どのチームも「どうすれば速く渡したり、転がしたりすることができるか。」を主体的にみんなで話し合い、練習していくことでしょう。他者と一つの目標に向かって協働する場合には、コミュニケーションが欠かせません。身長も歩幅も関心も異なる子供たちが気持ちを一つにしてそれぞれが気持ちよく取り組むためには、違いを認め理解し合うことが必要です。

さらに主体的に取り組むためには、一人一人のモチベーションを高め課題意識をもって臨むことも大切になります。リーダーとなる上級生は下級生を認め励まし、勇気づけながら物事の意味や方法を丁寧に伝えながら練習し、修正を繰り返すことになります。そのうち、上手くいくチーム、思い通りにいかないチームが出てくるかもしれません。上手くいかなくても怒らず焦らず根気強く話し合いを続け、実践していく力が求められます。どうしたら下級生にも分かってもらえるか、思い通りに動いてもらえるかを真剣に考えるでしょう。最後まで根気強く取り組めたチームだけが達成感や成就感、連帯感を味わうことができるのです。

このように主体的に取り組む「やってよかった」「みんなでやって楽しかった」という体験が次の活動につながり、非認知能力を育てていきます。児童は仲間と協働しながら課題を解決するまで粘り強く取り組み「自己実現」を図ろうとしているのです。そして、この学びで獲得した課題解決能力は、運動会だけでなく全ての学校教育活動で生きて働く力になります。課題を仲間と協働して解決できた経験を繰り返すことによって、課題を見つける面白さにもつながり、解決するためにどのような方法を選択するかを楽しめる子供に育っていくことと信じます。

まだまだ残暑が厳しい中ですが、子供たちが運動会を通して自分を見つめ他者と協働しながらよい経験を積めるよう職員一同支援していきます。ご協力をお願いします。



曲がりくねった列が当日どうなっているでしょう